

絵はがき時空間マップの構築と時空間情報管理の課題と展望

——横浜関内デジタル時空間マップの構築に向けて——

石黒 徹・後藤 寛・齊藤多喜夫・齊藤義雄・多田高志・田中憲之・佐藤 将

Construction of Spatiotemporal Map of the Picture Postcards and a Problem and the Prospects of the Management of the Spatiotemporal Date : Towards Constructing Digital Spatiotemporal Map in KAN-NAI, YOKOHAMA Toru ISHIGURO, Yutaka GOTO, Takio SAITO, Yoshio SAITO, Takashi TADA, Noriyuki TANAKA, Susumu SATO

Abstract: We aim at the construction of the digital archive of the spatiotemporal date. We made digital map for an exhibition of the collection of picture postcard which it colored based on a photograph which we projected scenery and the manners and customs of the precious town on as the image information that was ever manufactured flourishingly. We report result and the problem that we were able to see through work of the rearranging of the picture postcard and the architectural invention of the map and the system construction of the tag.

Keywords: 横浜 (Yokohama), 関内 (Kan-nai district), デジタルアーカイブ (digital archive), 絵はがき (picture postcards), webGIS (webGIS)

1. はじめに

過去に作られた実測図や絵はがきといった歴史史料は作製当時の都市の状況ないしは都市形成プロセス過程を伝える貴重なものである。その中でも横浜に残された史料は①横浜港開港以来の150年という長い期間の史料が残されていること、②横浜の中でも関内地区をはじめとした、狭く密集した空間に多く残されている点がある。これらを踏まえて、筆者らはできる限り散逸させずに後世に伝えるために、デジタルマッピングデータを基にこれらの史料を統合化した空間基盤と

して「横浜デジタルアーカイブ」の構築を目指している。本報告では、この中で絵はがきコレクションの時空間マップの構築を通して見えてきた成果と課題について報告する。

2. 歴史史料としての絵はがき

日本における絵はがきのはじまりは明治 33 (1900) 年に私製葉書の国内での作成と使用が認められたときである (田邊 2002)。日露戦争での戦地状況を基に描かれた戦役記念絵葉書の発行を契機にブームが起きた。当時は各郵便局で長蛇の列ができたといわれており、この熱狂的流行を受けて、多くの人が絵はがきの収集をするようになり、全国各地で絵はがきの発行をする版元・出版社も急速に増加した (向後 2010)。

柏木 (2000) によると、日本の初期の絵はがき

後藤 寛 〒236-0027 神奈川県横浜市金沢区瀬戸 22-2

横浜市立大学 国際総合科学部

Phone: 045-787-2083

E-mail: yutakagt@yokohama-cu.ac.jp

は①ブロマイドの役割を持っていた美人絵はがき、②風景および名跡を紹介した観光絵はがき、③事件や出来事を扱った絵はがき、の3つに分類される。本章では、このうち②・③について対象地である横浜の絵はがきを題材に説明していくこととしたい。

2.1 風景・風俗を映した絵はがき

横浜を対象とした絵はがきも、この明治期から昭和戦前期まで盛んに作製されていた。戦後は占領軍による広範囲での接收により、絵はがきの発行も大幅に減少するが、戦前期までに数多く作製されたものは当時の風景や風俗、さらには土木技術を垣間見ることができる貴重な史料である。そんな絵はがきを通じて、当時の横浜がどう描写されてきたのかを見ていきたい。

図-1は当時の横浜港の賑わいの様子を描いたものである。人力トロッコ用のレールが確認できるほか、女性の和服姿や男性の正装姿など、当時の人々の服装も垣間見ることができる。図-2は横浜地方裁判所を描いたものである。このような施設を描いた絵はがきも数多く残されている。

2.2 ニュース媒体としての絵はがき

今回、暫定的に公開した横浜時空間マップには掲載していないが、横浜での関東大震災による被害状況を描いた絵はがきも数多く残されていることから併せて説明していく。

明治大正期において大災害をはじめとした社会的な出来事は当然、新聞でも報じられていた。しかし毛利(2013)によると当時の印刷技術では新聞に鮮明な写真を掲載するのが難しかった一方で、絵はがきは上質紙を用いたコロタイプで印刷することによって安価で鮮明な写真を再現することができた。そのため世の中に多く出回っていたため、写真を広く伝えるメディア媒介として機能を果たしていた。

このような機能を持っていたため、横浜での関東大震災による被災状況も図-3で描かれたような延焼した様子が描かれたものが数多く残って



図-1 横浜港の様子



図-2 横浜地方裁判所前の様子



図-3 延焼の様子を描いた絵はがき



図-4 書き込み年の消印がある絵はがき

いる。延焼以外にも地割れの状況等も残っており、当時の地震の大きさを描いた貴重な史料であるといえるだろう。

2.3 消印による絵はがきの年代推定

絵はがきの描かれている裏面からの年代推定は建物や風景の描写からは難しいが、図-4のように消印が残っている絵はがきも見られ（この絵はがきの場合は明治40年頃）、特定可能なものもある。

3. 絵はがきの地図ベースバーチャルミュージアム（横浜時空間マップ）の構築

絵はがきをデータベース化したサイトはいくつか存在する。たとえば「絵葉書資料館」では種類別・地区別に絵はがきを整理し、掲載しているものの、描かれた正確な場所、時期についての情報は付与されていない。これらの問題点を解決する方法として筆者らは ArcGIS online を活用し、地図ベースでのバーチャルミュージアムのサイト構築を、7月1日から8月31日まで試験的に横浜時空間地図（試作版）として公開を行った。本章ではこのサイト構築の上での工夫点について説明していく。

3.1 サイト内の構成と内容

サイトの構成として明治中期から関東大震災前までの明治・大正期、震災復興から第二次世界大戦終戦までの戦前期、戦後から昭和30年代までの戦後期の3区分に分けて用意した。

それぞれの背景には現在のベースマップを用意し、さらに建物や道路、地形関係との比較ができるように区分ごとにそれぞれの時期に合わせた市域図も併せて背景図に用意した（明治大正期には大正11年、戦前期は昭和6年、戦後期は昭和39年時点作製の地図を用意した）。背景図の比較に関してはスワイプ機能によって現在のベースマップとも見比べることが可能となっている（図-5）。

サイト上で用意した絵はがきは137枚に上る

（表-1）。時期別では明治大正期が1番多い構成となっている。時期以外にそれぞれの絵はがきを風景・風俗の様子から街路・通り、官公庁・公共公益施設、業務・商業施設、港湾関連施設、その他の5つに分類し、色分けを施した。この中では通りの風景やそこに描写されている人々の様子、明治大正期に建築された洋式建築物が大半を占めている。

それぞれの絵はがきについて描かれた正確な場所に地図上で配置した。また図-6のように位置情報だけでなく、描かれた建物や風景等の方向が判明している場合は方向の情報も付加した。



図-5 スワイプ機能による新旧背景図の表示例

表-1 絵はがきの分類

分類	明治大正期	戦前期	戦後期	総計
街路・通り	55	8	2	65
官公庁・公共公益施設	45	19	5	69
業務・商業施設	20	8	2	30
港湾関連施設	17	5	3	25
その他	0	4	1	5
総計	137	44	13	194



図-6 矢印方向に描かれた絵はがき

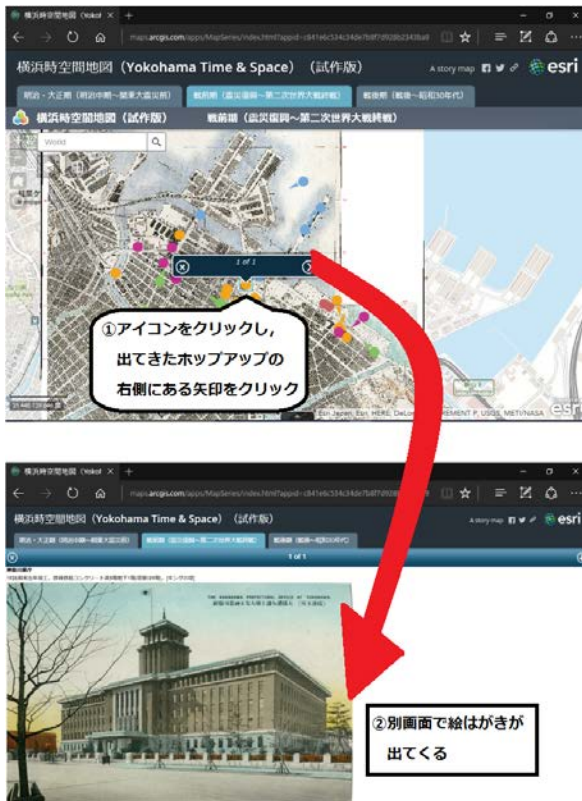


図- 7 絵はがきの表示例

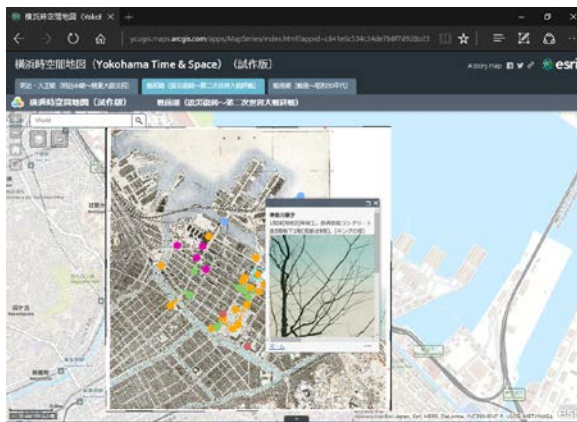


図- 8 絵はがきの表示例（画面縮小時）

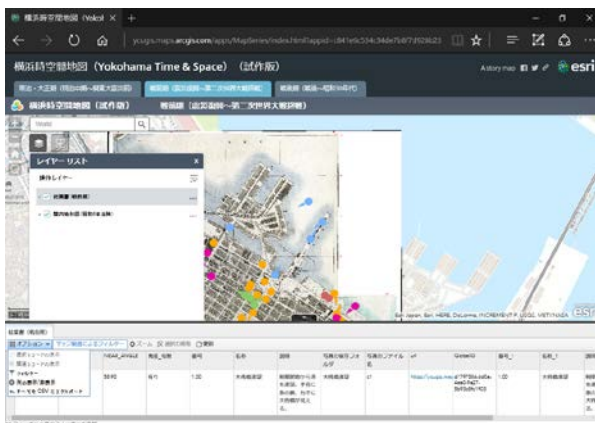


図- 9 絵はがきの付加情報の表示

3.2 サイト内での絵はがきの見方と情報抽出

次にサイト内での絵はがきの見方について説明していく。図- 7 のような手順でアイコンをクリックすることで、別画面にて絵はがきおよびその説明文が出てくる仕組みとなっている。また画面を縮小してみた場合、アイコンクリック時に絵はがきがポップアップされる仕組みとなっている。拡大ボタンをクリックすることで図- 7 のような表示画面が出てくる（図- 8）。

図- 9 のようにマップ画面上に表示されるポイント分の絵はがきの付随情報も表形式で閲覧可能となっており、csv 形式でその情報を抽出可能となっている。

4. マップ作製上の課題と今後の展望

ここまで筆者らが暫定的に公開した「横浜時空間マップ」でのマップ構築の際の工夫点等を紹介してきた。2章で紹介した消印からの推定以外での詳細な作製時期の推定は難しく、大まかな年代の区分けのみに留まった。絵はがきの分類についても建物ごとでの分類が主で、風景や風俗、季節等からの体系だったタグ構築についてはされていなかった点も課題である。今後はこれらの課題を踏まえ、絵はがきの作製時期の精度の向上、詳細かつ体系的なタグ構築、目的用途別に検索しやすいサイト構築を目指して進めていきたい。

参考文献

- 向後恵里子(2010)：日本葉書会一日露戦争期における絵葉書ブームと水彩画ブームをめぐって，早稲田大学教育学部・複合文化学編，58，59-90。
- 柏木 博(2000)：「肖像のなかの権力 近代日本のグラフィズムを読む」，講談社。
- 田邊 幹(2002)：メディアとしての絵葉書，新潟県立歴史博物館研究紀要，3，73-83。
- 毛利康秀(2013)：絵葉書のメディア論的な予備的分析，愛国学園大学人間文化研究紀要，15，29-46。

参考ホームページ

絵葉書資料館 (<http://www.ehagaki.org>)